

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年九月度 入選句 (投稿総数千九百四十九句・小中学投句数千二百四十一句)

特選

選者 白井 静子

すいかわりちゃんとならっておおあたり 大垣市 茂木 颯馬(小四)

すいかわりは、目かくしをしてやります。ですから、すいかがどこにあるかはわかりません。作者はどうやって大当たりをしたのでしょうか。まぐれ当たりでなく、ちゃんとねらって当てたのですから、大したものですよ。

「心眼」と言つて、物事の真相をはつきり見分ける鋭い心の働きがあります。作者は、正にこの心眼を働かせて大当たりをしたのでしょうか。作者の真剣さがよく伝わってきます。

トンボがね遊具のまわりをまわってる 大垣市 山田 菜々子(小三)

秋になるとたくさんさんのトンボがやってきます。作者の見たトンボは遊具のところにいたのですね。止まっているのではなく、遊具のまわりをまわっているところを見つけたのが作者らしいところですよ。

自分でも遊びたいと思つてここに来たのでしょうか。でも、先に来ていたトンボに順番をゆずつてあげました。「トンボさんも遊びたいのだね。」という、作者のやさしい気持ちがよくわかります。

入道雲もくもくわいて空かくす 大垣市 前田 桃佳(小六)

今年の夏も暑かったですね。入道雲もよく出ていました。東の山の方や南の海の方によく見られました。

作者は、普段よく見る入道雲が、大きく大きく発達しているのを見ました。まるで「空をかくす」ようだと思えたのです。言葉をよく選んでいるので、青い空を背にした白く大きな入道雲の様子が目に浮かびます。

秀逸

せみしぐれ朝日がのぼるとはじまるよ 大垣市 澤 美 玖(小四)

スイカわりいっぱいつうてばまっぶたつ 大垣市 かぎ田 まさや(小四)

ありさんもやすんでいいよぼくのかげ 大垣市 藤 原 仁(小一)

流れ星みのがさないよう目をみはる 大垣市 石田 理歩子(小五)

かえでさん風といっしょにすもうとる 大垣市 伊藤 大河(小四)

にがてでも声だけはすき秋の虫 大垣市 小林 奈央(小四)

サンマの目きれいに食べてとぼくに言う 大垣市 関谷 泉吹(小四)

とんぼさん自転車乗りのじゃまをする 大垣市 竹中 真斗(小五)

とんぼとぶ数ひきいっきにバラバラに 大垣市 臼井 椋亮(小五)

鉄の街夕日背にして海う飛ぶ 大垣市 竹内 恒太(小六)

入選

ひまわりがぐんぐんのびるよぼくみたい 大垣市 坪井 翔星(小四)
 おまつりだきんぎよすくい「とれた」の声 大垣市 高橋 みやび(小四)
 ひまわりとくさはなぼうぼうだんす 大垣市 いまづ まゆこ(六才)
 ひまわりがきょうだいにみえにらめっこ 大垣市 川瀬 里菜(小三)
 ブローチはステンドグラスの秋あかね 大垣市 西本 多恵(小四)
 こおろぎはあしがはやくてにげやすい 大垣市 あんどうゆうすけ(小一)
 ひまわりのあたまおもくておちそうだ 大垣市 ふじわら ゆら(小一)
 わたり鳥北から南へ大移動 大垣市 上垣 侑璃(小五)
 ねこじやらしかわのちかくにゆれてたよ 大垣市 ながさわ まみ(小二)
 木をゆらしどんぐり拾いリスになる 大垣市 藤井 結菜(小五)

入選

すいかわりみんなを信じてあるきだす 大垣市 富田 美咲(小四)
 ぼくみたいちよつとねこぜのやきサンマ 大垣市 関谷 晃介(小四)
 こいのぼりみているだけでげんきでる 大垣市 伊藤 幌舵(小四)
 すすきのほ風がふくたびごあいさつ 大垣市 川地 亜依佳(小四)
 月の中うさぎもぼくを見ているよ 大垣市 傍島 倫(小四)
 花火まう夜空のドレス色かえて 大垣市 神田 彩成(小五)
 ひまわりが空に背のびしいぼってる 大垣市 安部 小夏(小六)
 花火みてわたしの家族も笑顔だよ 大垣市 三輪 彩乃(小六)
 サケたちが帰省ラッシュで川上り 大垣市 阿部 竜之介(小六)
 はばとびの記録をのばすバツタ達 大垣市 古田 晏寿(小六)

選者吟

錆色の身を横たえて下り築

静子